

会議名 (審議会等名)		平成21年度 第1回 川西市産業ビジョン推進委員会 商業振興方策検討部会		
事務局 (担当課)		市民生活部 地域活性室 商工・観光課		
開催日時 開催場所		平成21年8月4日(火) 午後6時～ 市役所2階 202会議室		
出席者	委員	佐々木部会長 上野部会委員 高畑部会委員 川原部会委員 田中部会委員 河野部会委員 野中部会委員		
	その他	オブザーバー 川西市商工会 事務局長 コンサルタント 関西計画技術研究所 主任研究員		
	事務局	多田市民生活部長 大森地域活性室長 大南商工・観光課長 丸野課長補佐 福美主任		
傍聴の可否		可	傍聴者数	0人
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由				
会議次第		1. 委嘱状交付 2. 市長挨拶 3. 課題 「地域における商業振興方策の検討について」		
会議結果		別紙のとおり		

事務局 資料等の説明

各委員自己紹介

部会長

どうもありがとうございました。ただいま事務局から、本部会の設置目的や検討すべき項目などについて、また、本市の商業の現状や、市が実施している支援事業等について説明を頂きました。

ここからは、事務局からの説明について、質問やご意見をお聞きし、その後、地域社会と商業がどのように関わっていけばいいのか、あるいは現状においてどのような問題があるのかについて、お一人ずつお聞きしたいと思っております。

まず、事務局から説明について、ご質問やご意見をお願いします。

部会委員

商業に関する条例については、高槻市の話も出ておりましたが、5月には大阪府において、大分県の事例を参考に府で条例化されております。

当社では、高槻市において去年の暮れに店舗をオープンしたところ、いきなり年明けに商店連合会の会費の請求書がきました。

「これは何か？」と思い、市に問い合わせをしたところ、「商業に関する条例というものがありますので、それに沿って請求されたのではないのでしょうか」という回答でした。

「これはおかしいのではないか」、「金額は誰が決めたのか」、「入らない場合は罰則があるのか」ということです。

実際、府の条例については、本日偶然、府議会議員の方とお話しをする機会があり、罰則の有無について伺ったのですが、罰則はないということでした。それでは条例をつくっても意味がないのではないかと思います。罰則が無ければ、商業組織に入るところは入りますが、入らないところは入らないということになり、条例をつくっても意味がないのではないのでしょうか。

実際、当社の場合は、川西市内にも数店ありますが、会社としては1社しかございません。ただし、「それではダメです」という形になってしまいますので、最低限のご協力はさせていただきますが、このような条例化を進めたとしても、入らないところは全く入らないのではないのでしょうか。

このようなことを、先程の議員の方にお話しをしたところ、地域に根づいた協力といいますか、商店街や商工会などが大規模店舗等と取り組みや協議をしやすいように条例をつくったという回答でした。それであれば、そのような形で動いていただいて、当社の方もご協力いたしますということでお話しをしたところでした。

だから、条例化をしても、サポートするようなことについては意味があると思いますが、罰則化というか、全員商業組織に入りなさいというのは非常に難しいのではないかと

いう気がします。

部会長

いきなり核心に迫るようなご意見からスターといたしました。まだそこに踏み込んでいくのは早い気がしますので、少しステップを踏みながら進めていきたいと思っております。今ご指摘頂いた点は非常に重要なことですので、後ほど議論して行きたいと思っております。それでは、他に資料等についてのご質問などがあればお願いします。

部会委員

この部会については、何か結論を出すというものでもないのでしょうか。

事務局

産業振興方策については、最終的には産業ビジョン推進委員会が結論を出します。この部会では、地域と事業者との役割分担について議論を進め、まとめて頂きたいと思っております。

資料の5Pにもありますように、地域事業者の地域貢献の促進についてということと、市の商業を魅力的なものにするためにどうしたらいいのかということについてご検討を頂きたいと思っております。また、委員からご意見がございましたように、条例化が全てではありませんので、それについても今後検討・集約をお願いしたいと思っております。

部会長

私の方からもご説明をさせていただきます。この部会の役割としては、上部に産業ビジョン推進委員会がございますので、最終的にはそこで決定が行われます。本部会では、産業ビジョン推進委員会に、商業の部会として提案をもっていく形になります。その提案については、これから数回の会議を経て創りあげていく形になります。すこし走り出した議論になっておりますが、条例化を進めるのか、他の方向性を見いだしていくのか、まだ決まっておられません。ただ、本部会は、いろいろなものを見据えながら、最終的には地域社会と商業がどのように共存できるのか、商業は地域社会に対してどのような貢献ができるのか、今後の地域社会と商業がうまく関わるための政策や方向性を議論する場となります。その他何かございますか。

各部会委員 特になし

部会長

それでは、いろいろな立場があると思いますが、それぞれの現段階でのご意見をお聞きしたいと思っております。地域社会の中で商業振興をどのように考えるのか、地域社会と商業の

結びつきを頭において頂きながら、ご意見を頂ければと思います。

本日いろいろなご意見を頂きまして、次回以降は論点を絞りながら部会を進めていきたいと思っております。

#### 部会委員

地域貢献については、大型店と小売業者の考え方が違っていると思います。実際、一般小売業者は値段を下げるのには限界がありますが、大型店は仕入れが多いので、安く仕入れて、安く売るということで、地域に貢献されていると思います。

小売店は価格では地域に貢献ができませんので、コミュニティさんがやられている文化祭や納涼祭に参加し、寄付をするなりして、地域に貢献をしております。

たまたま、先日、コミュニティの方からお話を聞きました。そのコミュニティでは、北部にある大型店舗に寄付をお願いに行ったそうですが、本社決済なので判断できないといわれたそうです。そして、本社に電話すると、「地元に任せている」といわれて、たらい回しにされたということです。

「川西まつり」についても、我々は、商工会の会員として全くのボランティアということで、イベントなどに参加します。ただ、お祭りでも人が集まっても、大きいお店にお買い物に行ってしまう。結局、我々は人を集めても、その後大型店さんが取ってってしまうという気持ちになります。それであれば、大型店さんも我々と一緒にできるだけ、お金だけではなく、人員などでも協力して欲しいと思うわけです。

なぜ条例化の話になるかという、大型店さんにできる限り協力をして欲しいということなのです。

#### 部会委員

地域貢献というのは、商売人からしたらなかなか難しいものだと思います。商店街活動についても難しい状況になっています。

大店法の廃止にともなって大規模店舗が出店し、地域の小売業者が衰退しており、衰退することによってお客さんが離れていくという悪循環になっているのが現状ではないかと思っております。そういった中で、大型店と小売業者が手を組んで活性化の取り組みを進めるのが一番良い方向だと思いますが、その方法論がどうかということです。委員からもあったように、大型店については、本社や支社などをたらい回しにされるということも実際にあります。やはり、人と人のつながりというのが地域貢献には必要だと思っており、一番難しい課題ではないかと思っております。地域貢献というのは、大型店にとっても、また、我々小売店にとっても難しいものだと思います。

世の中が変わってきて、人間の考え方、世相が変わってきた中で何が地域貢献なのかわかりにくいところもたくさんあります。ただ、消費者が何を考えているのか、どんなことを望んでいるのかを考えていかななくてはなりません。売る方は大型店にしても小売店にしても、毎日何かを売っていかなくては商売になりませんが、消費者からすると、「良かろう、安かろう」というのが実情だと思いますので、消費者の考え方などをもう少し勉強する必要もあるのではないかと思っております。

## 部会委員

大型店と小売店の競争は非常に難しいと思います。市内の状況を見ますと、阪急の高架事業によって、人の流れが変わり、結果として大きな店が残っている状況です。

最近思うのが、ある程度大型店やスーパーが進出して、まちの小売店などがつぶれている中で、高槻市では条例化などの取り組みを行っているようですが、根本的に大型店と小売店、商店街が共存するためにはどのような方策はあるのでしょうか。少し難しいような気がします。それを探っていくのが今回の部会なのですが。コミュニティでの取り組みに関しては、大型店から人、社員が出てくることはまずありません。地域の活性化について、根本的な考え方が違うのかもしれないかもしれません。地域で消費者に対して安いものを提供することが地域貢献なのではないかと考えられているかもしれませんが、そのことによって地域の小売店がどんどんつぶれています。

地元の個人商店がどんどん潰れることによって、消防団がなくなっており、むしろそちらの方が問題となっています。大型店が進出してきて、良いものを安く売ることが地域貢献かもしれませんが、それが地域を完全に崩壊させているのではないかと思います。良いものを安く売る以外で、何らかの地域社会への貢献もあればと思っております。

## 部会委員

消費者は、実際の生活にどれだけのメリットがあるかで、どこの店で買うかを決めています。今は、大型店や小売店だけではなく、いろいろなタイプの購入先があります。共同購入やインターネット、通販など多様化しています。その中で、高齢化が進んでおり、それらを使い切れない高齢者もおります。大型店のメリットは凄いなと思いますが、小売店についても良い面もすごくあると思います。しかし、それをなかなか売り込めていないのではないかという気がします。例えば、家電などについては、大型店に行けば何でも売っているのですが、広いところで店員さんにも聞き辛くてアドバイスが得にくい感じがします。スーパーでも同じです。小売店では、親身になって説明をして頂けますし、専門性を持って対応して頂くと非常にありがたいです。信頼関係というのは小売店の武器ではないかと思うのです。

私は福祉分野で取り組みをしておりますが、福祉分野でも頼りになるのは小売店です。定期的に御用聞きで街をまわるついでに安否確認をしてもらったり、トラックで毎週回って昔の御用聞きのような取り組みが地域の高齢者の方に好評です。小売店も「こういうことができる」ということをもっと積極的に消費者や地域の人に売り込んでいかなくてはいけないと思います。

イベントばかりでは、そちらで疲れてしまって、お客さんも大型店に流れてしまいますので、何よりも生活のバックアップのような取り組みをお願いしたいと思います。

## 部会委員

うちの地域での夏祭りは好評でして、そういう意味では消費者はそのようなものを欲しているのではないかと思っております。

私はいろいろな店舗に行きましたが、電気製品を扱う店にいたとき、高齢者の方から「電気がつかない」というお話があり、電球は大丈夫だったのですが、電気の傘がダメになっていたので、大型店には一人でいけないということで、電気屋さんを紹介したことがございます。また、今の店の車椅子がつぶれてしまい、近所の自転車屋に行って頼んだら、10分くらいですぐに直りました。高齢化すればするほど、近くですぐに対応してくれるところが必要になると思います。あるところで店舗を作ろうとしたら、その地域の1世帯あたりの人数が1.7人でほとんど単身者でして、地域の人が望んでいることは会話でした。そして、その店は会話のある店にしようということにしたのです。

大型店になればなるほど、お客さんと店との会話がなくなってしまうと思います。私も歳ですので、電化製品で分からないことがあります。そのようなことにも対応して頂くと、使いやすいし、製品を買ってみようと思う方も増えると思います。地デジ対応のテレビについても、半分以上の方が購入されていないというのも、どのようなものを買ったらいいのかわからないという方が多いのではないのでしょうか。

商業施設の配分というのは非常に難しい問題だと思いますが、最終的に大型店と小売店の共存というのは形だけでは無理だと思います。人と人とのつながりといいますか、信頼関係が重要となります。「今、こうしたらいい」という結論は難しいと思いますが、それぞれのエリアでどのように協力し合っているのかということを経験的に積み上げていくしかないと思います。条例をつくってパツという訳にはいかないと思っております。先生もいらっしゃいますので、新しいやり方などもあるかもしれませんが、私の経験では、それぞれのやり方で進めていかなくては難しいと思っております。

#### 部会委員

当社は、安全安心な商品の提供が第一と考えております。それと、地域社会に対する貢献といいますか、つながりとしては、青少年の非行の問題がございまして、地域に出店する前は説明会を二度三度と行なうわけですが、必ず出てくるのが青少年の非行の問題であります。

これにつきまして当社では、自動販売機を店の回りに設置しない、青少年がたむろしないように対応をさせて頂いております。あと、エコ、CO<sub>2</sub>削減の取り組みとして、24時間営業から短縮し、交通安全を考えて朝は子どもさんが学校に完全に入られる時間の9時に開店し、夜は10時に閉店するようにしております。

また、小中学校が近くにあれば、子どもさんの授業の一環として現場研修などを受け入れております。大型店と地域の小売店さんとの共存共栄ということについては、きれいごとではなかなかできません。当社の場合は、今のところ、地域の清掃や祭りへの寄付などについては各店舗の店長に一任しております。当社のモットーとして「地域社会への貢献」が出ておりますので、そのような取り組みは各店舗で取り組んでいると思います。

ただ、このような取り組みが全ての大型店、量販店さんで同じようにできるかどうかという、難しい問題だとは思いますが、当社では地域への貢献をこのような形で進めております。

また、先程もでましたが、お年寄りの方や身体がご不自由な方への配達サービスについては、数店舗で実験をしております。将来的にも問題になってくることだと思っております。

ますので、有料無料に関わらず、配達サービスへの取り組みも進めていきます。他にも地域貢献の取り組みがあるかとは思いますが、今思いつくところでは、このような形の取り組みを進めており、それが当社と地域との関わりではないかと思っております。

#### 部会委員

今、全ての委員からご意見を頂戴いたしました。補足する点や発言への意見などがございましたらお願い致します。

それでは、オブザーバーとして商工会の方にもきて頂いておりますので、今までの議論を聞かれて補足する点などがありましたら、お願い致します。

#### オブザーバー

我々は、地元の小売業者の方々と市内の振興策について協議する立場でございますので、少し考え方などが偏っているかもわかりませんが、今まで地域のいろいろな役割を補ってきた方が、廃業されたことによって、そのような戦力がダウンしているのは確かでございます。それを営々と守ってこられたということについて、アピール下手ということもあるかと思いますが、評価されるべきではないかと思っております。大変やりにくくなってきたという部分を、大型店さんなどに助けて頂きたいというのが本音ではないかと思っております。また、先程出ておりました「安全・安心」について、何かの機会に「安全」と「安心」は全く別のものというお話しを伺ったことがありまして、「安全」については、セキュリティが万全というように理解するものでありますが、「安心」については、心の安らぎといえますか、心の面の話であるとお聞きしたように思います。

確かに顔が見える商業者の方々が周辺におられて、そこで買物をされる方もどこか安心だったように思えます。大型店さんについては、いろいろなものをクリアされており、安全なものを購入することができると思いますが、高齢化が進んで、周辺に商業者がいなくなってしまう、高齢者の方は不安に思っておられるのではないかと考えております。だからこそ、必要最小限、地域には安心を提供する商業者などが必要ではないかと思っております。

#### 部会委員

様々なご意見を頂戴いたしましたが、ここから議論を進めていくことになると、恐らく空中戦でやって頂くことになると思います。

それは次回以降、少し議論を煮詰めていきたいと思っております。

それでは、本日頂いたご意見を整理して行きたいと思っております。

まず1点目ですが、「商業者の地域貢献」をどのように捉えるのかということで、大型店の考える地域貢献、中小小売店の考える地域貢献、消費者の立場から商業者に求める地域貢献など、それぞれの立場での地域への貢献、地域との関わりに関する考え方について、その中身が違ってくる場所もあり、また、温度差もありますので、この点を詰めて

いきたいと思っております。

2点目としては、「大型店と中小小売店との共存共栄」についてです。

中小小売店の店舗数減少や廃業した店舗にチェーン店が入ることが多くなってきている等の背景から、これまで地域の中小小売店が地域社会において担ってきた部分がなくなってきたっており、その部分を、「新しい協力体制」もしくは「共存共栄」という枠組みの中で、大型店に求めることができないかということを考えていきます。

また、これまでは、小売店が地域社会の中で様々な役割を担ってきたことが、現状では担いきれない状態となっており、このままにしておくと地域社会が疲弊してしまいます。そこで、これまで小売店が担ってきた役割について、大型店と小売店がお互いにできることをやっていくという仕組みをどのようにつくっていくかということが論点になります。

3点目としては、「共存共栄の具体的な方法」についてです。これについては、部会の回をおうごとに議論を深めていきたいと思っておりますが、例えば条例という形になるのか、それとも違うものになるのか、具体的な方法について考えていきます。

4点目は、「大型店や中小小売店の地域貢献の実態を明らかにする」ということで、様々なイベントの開催や祭等への参加、会費寄付的なものや人材の交流など、小売店や大型店における地域貢献の実態をこの部会を通じて明らかにする必要があります。できましたら、事務局にはこれらに関するデータのものを次回以降に提示していただきたいと考えております。また、「地域社会において経済活動以外で商業がどのような役割を果たすことができるのか」ということが、本部会において今後求めていく議論の着地点であります。より具体的には、大型店と一般小売店があわさって、地域において、非経済的な側面で果たせる役割を追求していくこととなります。そして、21世紀に入り、少子高齢化が進み、一般小売業者数も減っていく中で、もう何らかのアクションをとらなくてはいけない時期に入ってきており、アクションにつながるような議論を進めていきたくて考えております。

次回の第2回部会では、「新しい協力体制をどのようにしていくのか」、「非経済的な側面で商業がどのような地域貢献を果たしていけるのか」についての意見聴取や議論を進めたいと思っております。また、条例の効力についてもご意見がありましたので、少し早いかもしれませんが、可能であれば、他市における商業振興に関する条例の紹介や、その条例の運用状況やどの程度効果があるのかについて事例などを提示して、議論を進めていきたくてと思っております。

部会長

「4. その他」事務局から何かございますか。

事務局

次回部会については、9月の中旬の開催を考えております。条例についてはいろいろと探してみたいと思っております。



部会委員

他に何かございますか。

部会委員

大型店には阪急は入ってこないのでしょうか。

事務局

資料の6Pで市内の大型店を記載しております。

部会委員

地域商業者という言葉がありますが、これは何を指しているのでしょうか。大型店やスーパーを指すのか、小売店を指すのか、私は全ての指しているように思いますが。

部会委員

私自身は委員がおっしゃるように、全てを指していると考えています。生活基盤を市内に置く一般の中小小売店はもとより、市内に店舗を構えて商業活動を営んでおられる全ての商業者が含まれると思います。本社機能を別に持っているチェーン店なども全て含めて議論を進めていくことになると思います。事務局もそのようなお考えですよ。

事務局

はい。

部会委員

阪急さんがやはり中心だと思います。

我々の想いや意見だけでは相手をしてもらえない、また実行力を伴わないかもしれませんので、この議論に入って頂いて話を進めるべきではないでしょうか。

部会委員

事務局としてはなかなか難しいお答えになると思いますが、結局、最終的には大型店サイドがどのように地域貢献に関わってくるのかということが論点になると思いますが、むしろ阪急さんなどに入って頂いた方がいいのではないかとのご意見です。現状のままです。コンセンサスが得られるのかということですが、いかがでしょうか。

## 事務局

部会の構成について、大人数では検討しにくく、忌憚りの無い意見も出にくいということで、商業者として小売店2名、大型店2名、そして消費者2名の6名程度とさせて頂きました。

また、大型店として阪急さんを入れなかった理由としては、店長の立場で部会に入ってもらっても具体的な議論ができないのではないかと考えております。このため、比較的早い時期から地域に根付かれて地域との関係がうまくいっている店舗さんや、大型店としては店舗面積も大きく他市でも展開をされている店舗さんに入ってもらったというところで、地域の小売店との協力、連携の考え方にも期待をしているところがございます。

## 事務局

川西市全体を対象としているのではなく、各地域で大型店と小売店がどのように協力していけるのかということが部会の議論の中心になると考えておまして、百貨店は少し立ち位置が違くと事務局としても考えまして、地域において商業活動をしておられる大型店を選ばせて頂きました。

## 部会委員

今回入っていただいた1店舗さんについては一般の大型店とは性格上若干違うのではないかと思います。

私自身は、市内中心部を基本に考えていて、北部については少しわからないのですが、中心部については、阪急やコーヨー等に明らかに人の流れが向かっていると思います。それに伴って、ジャスコもなくなって、今は西友に人が流れていますが、その影響をもろに受けているのが中心部の小売業者さんではないでしょうか。それなら一番肝心の中心部の大型店である阪急さんにこの部会に何らかの形で入って頂けたらいいのではと思っております。あと、飲食業も部会に入っておりません。個人の飲食業者さんも大変だと思えます。市内商業の活性化を図るのであれば、食料品や飲食店、飲み屋さんなども重要になりますし、中心部を考えるのであれば、やはり阪急などの参加も必要になると思います。中心部の小売業者さんは圧倒的に多いので、どこを中心に考えるのか、このまま話を進めても商工会や小売業者が気の毒だと思います。

## 部会委員

この提案をまとめたらビジョン推進委員会に上げていくということですが、市内にはコンビニも多くありますが、お願いしても議論の場に参入してこないと思います。決まったことについては従うかもしれませんが、ここに出てきて頂いている大型店さんはかなり良心的だと思います。他の大型店さんは、店長は出てきません。

飲食店も大変です。川西では大手の居酒屋チェーン店が夜中まで営業していて、家族がやっている小さいお店は会合に出てこられる状況ではないです。

地域に対して大型店は何ができるのか、小売店は何ができるのかというのは大変難しいテーマだと思います。消費者の方は「安い」「安全」「おいしい」を絶対求めてきます。地域にお店を出している方はいろいろな協力をしてくれという発言だと思いますが、大型店も小売店も利益が上がっているうちは協力できますが、不景気になるとそこまでできない。特に小売業者は経営が大変で会合に参加できないというのが現場の状況なのです。これが現場の実際の声なのです。

#### 部会長

部会の委員の人選については、既に市長からの委嘱も終わっておりますので、今からというのは難しい状況です。今回選出の委員といたしましては、商業者、消費者（地域住民）、大型店からの代表という形をお願いしており、それぞれの立場を代表できる意見から集約ができると思います。どんどん深く考えると他の団体もチェーン店やコンビニなどかなり膨らんでいきますので、このメンバーで意見を収斂できるものとして検討を進めて行きたいと思います。また、委員からご指摘がありましたように、地域で何か崩れているのかということも見据えていく必要があります。この部会でも地域で何ができなくなってきているのかを明確にして、検討を進めていきたいと思っております。

#### 事務局

第2回部会の日程については、9月中旬を考えておりますが、日時の詳細については、今後みなさんの都合をお伺いして、調整をしたいと思っております。

#### 部会長

それでは、第1回部会について、長時間にわたって議論を頂きましてありがとうございます。非常に暑い時期、しかも夜にもかかわらず熱心なご議論を頂きました。非常に大事な問題で、どのように地域を考えていくのかということが、これからいろいろな局面で突きつけられてくると思います。我々としては、商業の分野から地域との関わり合いを打ち出していけるよう、また2回目以降の検討をよろしくお願い申し上げます。

※ 主な発言の要旨等、審議経過がわかるように記載すること。